

平成 28 年 2 月 18 日

日本調剤株式会社

日本調剤・自主企画調査  
『薬局、かかりつけ薬局に対する生活者の認知・意識』

多くの人々が『薬局』とは、「薬剤師がいるところ」(82.3%)と認識

4 割の人は、『かかりつけ薬局』という言葉を見たり聞いた事はない

6 割近くの人々は現在、『かかりつけ薬局』を持っていない(57.9%)

全国 47 都道府県で調剤薬局を展開する日本調剤株式会社(本社:東京都千代田区丸の内、代表取締役社長 三津原 博)は、超高齢社会が到来した今、地域における医療・健康管理の拠点として「薬局」の役割が注目されていることから、自主企画調査『薬局、かかりつけ薬局に対する生活者の認知・意識』を実施しました。

本調査は、全国の 20 歳～70 歳以上の男女 1,008 人を対象に、2016 年 1 月 15 日～18 日の期間にインターネット調査で実施し、その結果をまとめました。



## 調査結果のポイント

本調査は、処方せん調剤を行う「薬局」と「かかりつけ薬局」というキーワードに対して実施しました。生活者にとって、「薬局」の存在がどう映っているのか、また「かかりつけ薬局」という言葉自体に対して、現在、どのような認識を持っているかを明らかにするために、全国の 20 歳～70 歳以上の男女 1,008 人に「薬局」及び「かかりつけ薬局」に対するアンケート調査を行った結果、以下のことがわかりました。

### 1. 『薬局』に対する認知と意識

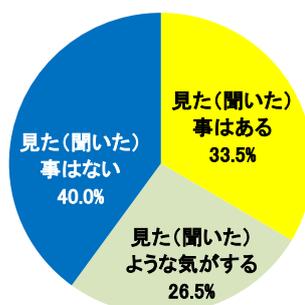
※ここで言う『薬局』とは、処方せんによる調剤を行っている薬局・ドラッグストア等のこと。

- 9 割近くの人々は、処方薬の調剤を目的に『薬局』を利用した経験がある。
- 薬局を利用したことがある人の半数近くは、処方薬をもらう際は「毎回同じ調剤薬局に行く」(46.9%)
- 『薬局』に対して持っている認識は、「薬剤師がいる」(82.3%)、「医療機関で処方された薬をもらえる」(81.7%)、「薬の相談ができる」(54.9%)。
- 機能や設備に対する希望は、“機能”では「自分の薬に対する詳しい説明や、適した薬のアドバイス」(59.0%)。“営業形態・設備”は、「ゆったりとした待合室」(40.3%)が最多。

## 2. 『かかりつけ薬局』に対する認知と意識

- 4割の人は、『かかりつけ薬局』という言葉、「見た(聞いた)事はない」。性年代別で最も認知率が低いのは男性50代で半数以上が「見た(聞いた)事はない」(52.4%)。認知率が高いのは、女性40代で「見た(聞いた)ことはある」(46.4%)。

『かかりつけ薬局』という言葉の認知(単数回答)n=1008



- 現在、すでに『かかりつけ薬局』を「持っている」人は約3分の1。6割近くの方は「持っていない」(57.9%)。性年代別でみると、最も保有率が高いのは、女性70歳以上で「持っている」が56.0%。保有率が低いのは、男性20代で「持っていない」が72.6%。
- 『かかりつけ薬局』を選ぶ時に重視する機能・サービスのトップ3は1位「薬の効果や副作用の確認」(57.0%)、2位「複数の医療機関から出ている薬の飲み合わせチェックや残薬の確認」(48.7%)、3位「医師の処方内容についての確認」(35.4%)となり薬に関する事柄が重視ポイントの上位を占める。



### 考察

今回の調査結果から、処方せんを扱う薬局(調剤薬局)には多くの方が利用したことがあり、半数近くの方がいつも利用する薬局を持っていることがわかりました。大変身近な存在であるものの、多くの方が“薬剤師がいて処方薬を受け取る場所”という認識を持っているようです。

一方、“患者一人ひとりの服薬情報の一元管理、継続管理の場”としての「かかりつけ薬局」については、「かかりつけ薬局」という言葉自体の認知をしていない方が4割、意識して「かかりつけ薬局」を持っていると答えた方が約3割と、「かかりつけ薬局」そのものの認知がまだ進んでいないことがうかがわれました。

薬局が「かかりつけ薬局」としての役割を果たしていくには、薬局が患者さまの服薬サポートの場であると同時に、地域の人々にとっても、病気の予防や健康サポートの場として気軽に立ち寄れる場所であることをもっと認知していただく必要があることがわかりました。

国では、地域社会における薬局の役割を明確化して、2016年4月から患者さまの服薬情報を一元的かつ継続的に把握して薬学的指導にあたり、地域の人々から信頼される「かかりつけ薬剤師・薬局」を、薬局の新しい制度としてスタートする予定です。

日本調剤では、今後も地域の皆さまから支持される「かかりつけ薬局」を目指して、積極的に取り組んでまいります。

## 【調査概要】

調査方法:インターネット調査

調査地域:全国

調査対象者:20歳～70歳以上の男女 1,053人

サンプル構成:全体 1,008 男性 504 女性 504

20～29歳(全体 168 男性 84 女性 84)

30～39歳(全体 168 男性 84 女性 84)

40～49歳(全体 168 男性 84 女性 84)

50～59歳(全体 168 男性 84 女性 84)

60～69歳(全体 168 男性 84 女性 84)

70歳以上(全体 168 男性 84 女性 84)

調査期間:2016年1月15日(金)～1月18日(月)

調査手法:株式会社インテージに委託して、インターネット調査で実施

※グラフのパーセンテージは四捨五入されているため合計値が100にならないものもございます。

【日本調剤株式会社について】 <http://www.nicho.co.jp/>

1980(昭和55)年の創業以来、一貫して国の健康保険制度を支える調剤薬局のあるべき機能・役割を全うすべく「医薬分業」を追求し、調剤薬局 展開を積極的に行っている。現在では、全都道府県に調剤薬局を展開し約2,500名の薬剤師を有する、日本を代表する調剤薬局企業として評価を得ており、さらに超高齢社会に必要とされる良質な医療サービスを提供する“調剤薬局の新しい姿”を追い求めて、取り組んでいる。

【本ニュースリリースに関するお問い合わせ先】

■日本調剤株式会社 広報部 広報担当

TEL:03-6810-0826 FAX:03-3201-1510

E-Mail: [pr-info@nicho.co.jp](mailto:pr-info@nicho.co.jp)

## 【調査結果】

### 1. 『薬局』に対する認知と意識

※薬局とは:ここで言う『薬局』とは、処方せんによる調剤を行っている薬局・ドラッグストア等のことです。

※処方薬とは:医師が診断をもとに処方する「医療用医薬品」のことです。

※市販薬とは:薬局やドラッグストア等で、自由に買える「一般用医薬品」のことです。

Q1 あなたは、これまでに医療機関から処方された処方薬の調剤を目的に、『薬局』を利用したことがありますか。(回答は1つ)

処方薬の調剤を目的に『薬局』を利用したことがある人は、87.6%と9割近くが利用経験がある。

【表1】処方薬の調剤での『薬局』の利用(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1008	100.0
ある	883	87.6
ない	125	12.4

Q2 あなたは、『薬局』とはどのようなところだと思っていますか。(回答はいくつでも)

『薬局』に対して持っているイメージで最も多いのは、「薬剤師がいる」(82.3%)。次いで、「医療機関で処方された薬をもらえる」(81.7%)、「薬の相談ができる」(54.9%)となった。

【表2】『薬局』に対するイメージ(複数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1008	100.0
薬剤師がいる	830	82.3
医療機関で処方された薬をもらえる	824	81.7
薬の相談ができる	553	54.9
市販薬を購入できる	488	48.4
医薬部外品、衛生用品や健康食品を購入できる	374	37.1
生活用品を購入できる	292	29.0
その他	3	0.3

Q3 あなたが『薬局』を利用する際は、どのようにすることが多いですか。(回答は1つ)

【回答者: Q1で調剤を目的に薬局を利用したことが「ある」と回答した人】

調剤を目的に薬局を利用したことがある人が、処方薬をもらう際はどのようにすることが多いか聞いた結果、「毎回同じ調剤薬局に行く」(46.9%)が最も多く、半数近い人は行く薬局を決めている。「特に決めていない」人は32.6%。

【表3】『薬局』の利用方法(単数回答)

	回答者数	%
TOTAL	883	100.0
毎回同じ調剤薬局に行く	414	46.9
複数の調剤薬局に行く	171	19.4
特に決めていない	288	32.6
その他	10	1.1

Q4 あなたは、『薬局』にどのような機能や設備があるとよいと思いますか(回答はいくつでも)

『薬局』にあるとよいと思う機能や設備を聞いた結果、“機能”のトップ 3 は、「自分の薬に対する詳しい説明や、適した薬のアドバイス」(59.0%)、「ジェネリック医薬品の説明や推奨」(49.9%)、「処方薬だけでなく、市販薬に関しての相談」(35.5%)といった薬に関する事柄が上位を占めた。

“営業形態・設備”のトップ 3 は、「ゆったりとした待合室」(40.3%)、「大きな駐車場」(33.3%)、「プライバシーに配慮した投薬カウンター」(28.2%)となった。

[表 4-1]あるとよいと思う薬局の“機能”(複数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1008	100.0
自分の薬に対する詳しい説明や、適した薬のアドバイス	595	59.0
ジェネリック医薬品の説明や推奨	503	49.9
処方薬だけでなく、市販薬に関しての相談	358	35.5
血圧・身長・体重測定などができるヘルスチェックコーナー	209	20.7
生活用品の販売	184	18.3
薬以外にも生活習慣全般にかかわる相談	141	14.0
医療機器や介護用品の販売	108	10.7
疾病予防や健康に関するイベントの実施	83	8.2

[表 4-2]あるとよいと思う薬局の“営業形態・設備”(複数回答)

	回答者数	%
TOTAL	1008	100.0
ゆったりとした待合室	406	40.3
大きな駐車場	336	33.3
プライバシーに配慮した投薬カウンター	284	28.2
無料の水やお茶のサーバー	275	27.3
深夜まで営業	233	23.1
バリアフリーに配慮した設備	133	13.2
Wi-Fiの環境	115	11.4
ATM	100	9.9
カフェスペース	95	9.4
キッズスペース	60	6.0
ドライブスルー	59	5.9
携帯電話やスマートフォンの充電	59	5.9
宅配便の受付	32	3.2

## 2. 『かかりつけ薬局』に対する認知と意識

### ◆かかりつけ薬局について

国の政策として、2016年より患者の服薬状況を一元管理する「かかりつけ薬局」制度を導入し、推進していく方針です。「かかりつけ薬局」を推奨する主なポイントとしては以下のようなことがあります。

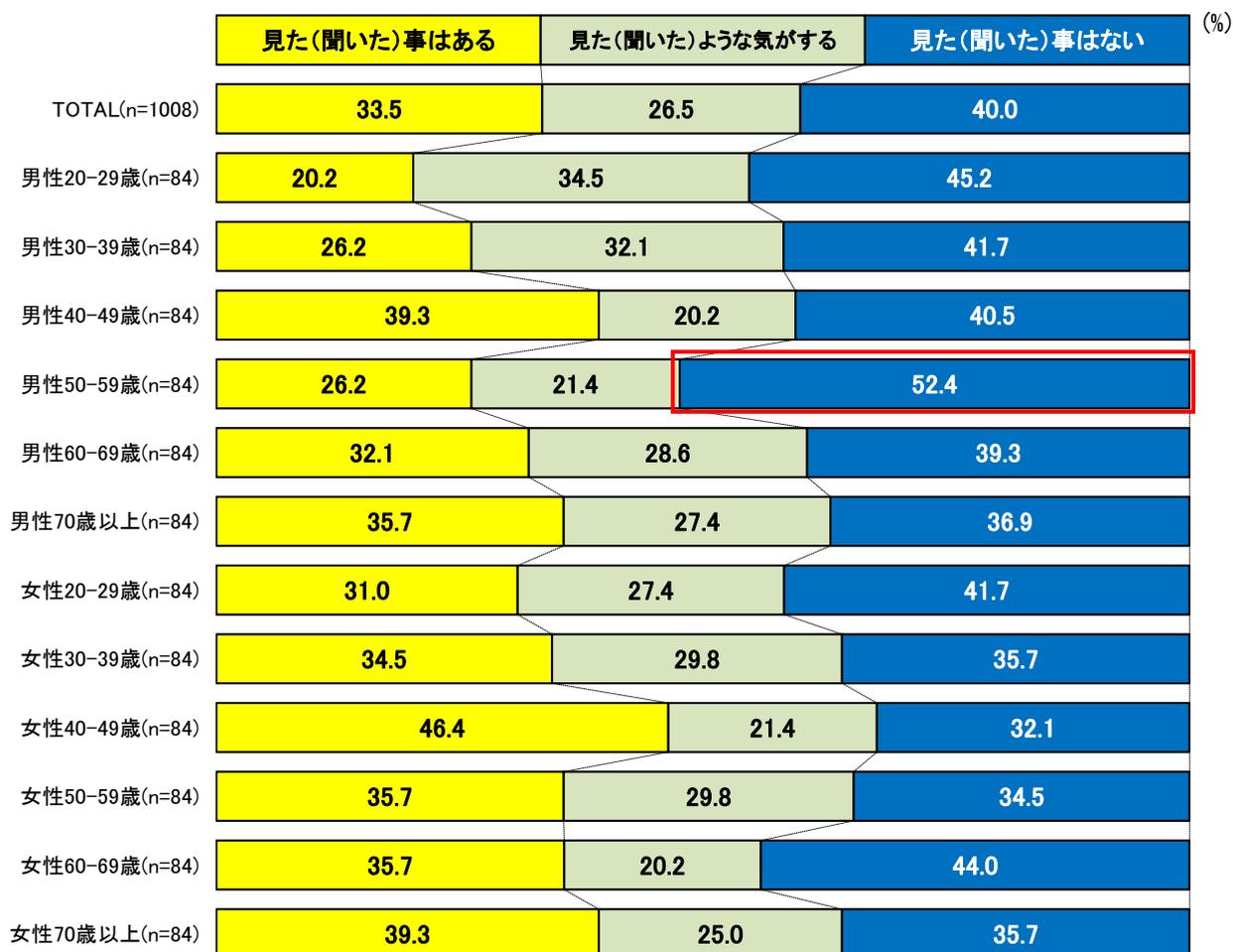
- ① 普段から利用する薬局を、1つ選んでおく
- ② 調剤された薬や購入した薬について、その薬局で、継続的に管理してもらう
- ③ なんでも相談できる薬局・薬剤師を見つける

### Q5 あなたは、これまでに『かかりつけ薬局』という言葉を見たり・聞いたりしたことはありますか(回答は1つ)

『かかりつけ薬局』という言葉に対する認知を聞いた結果、4割の人が「見た(聞いた)事はない」で最多。次いで「見た(聞いた)ことはある」(33.5%)、「見た(聞いた)ような気がする」(26.5%)となった。

性年代別でみると、最も認知率が低いのは男性50代で半数以上が「見た(聞いた)事はない」(52.4%)。女性の方が認知率は高い傾向にあり、最も高いのは、女性40代で「見た(聞いた)ことはある」(46.4%)となった。

[図5] 性年代別:『かかりつけ薬局』という言葉の認知(単数回答)



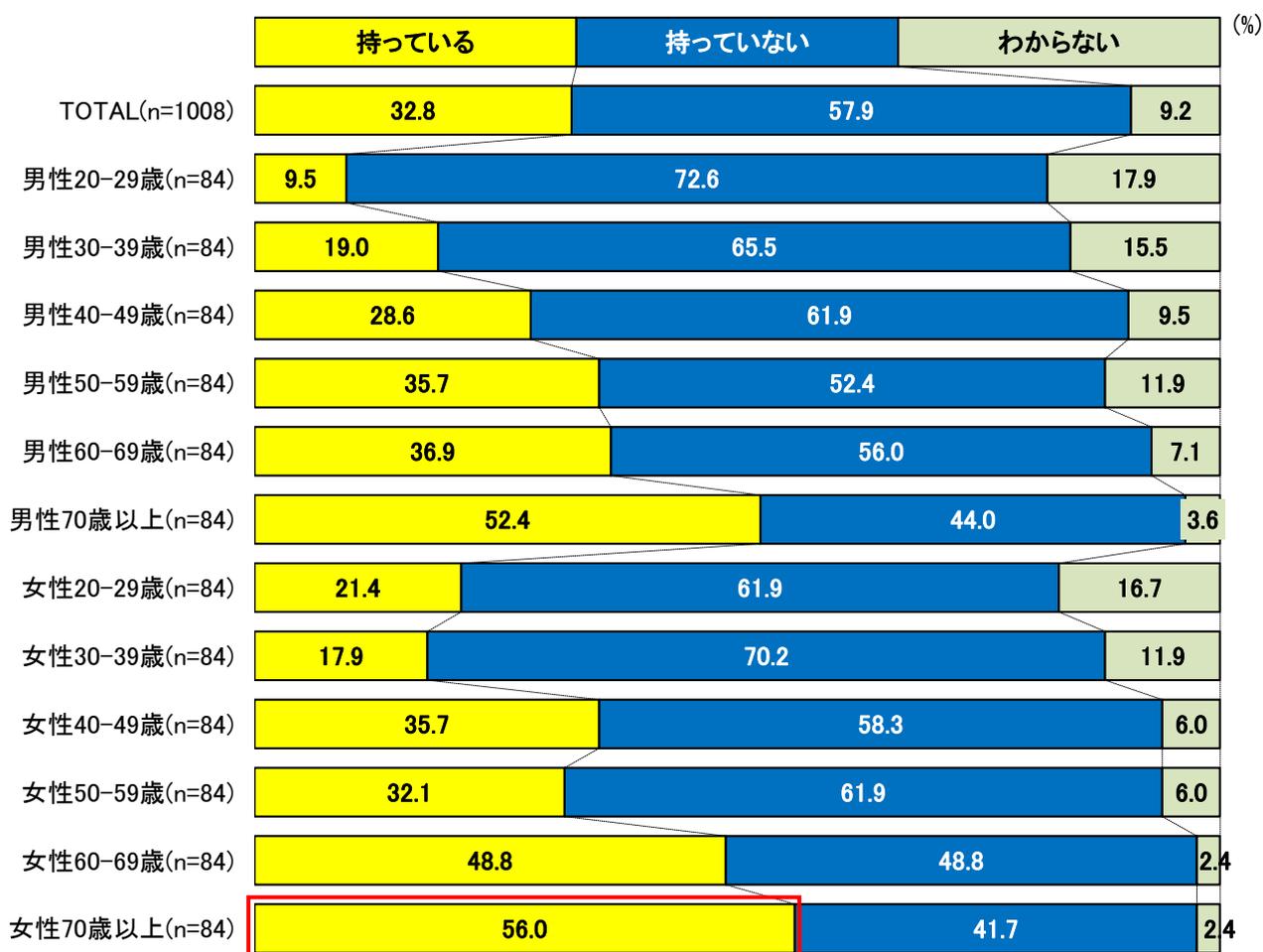
Q6 あなたは、現在『かかりつけ薬局』を持っていますか(回答は1つ)

現在、すでに『かかりつけ薬局』を「持っている」人は 32.8%で約 1/3。6 割近くの方は「持っていない」(57.9%)、「わからない」も 9.2%存在。

性年代別でみると、男女とも 70 歳以上の 5 割以上が『かかりつけ薬局』を保有しており、女性 70 歳以上の 56.0%、男性 70 歳以上の 52.4%が「持っている」。

保有率が最も低いのは、男性 20 代で「持っていない」が 72.6%。次いで女性 30 代(70.2%)、男性 30 代(65.5%)。男女とも 20 代は、自分が『かかりつけ薬局』を持っているか、いないか「わからない」(17.9%、16.7%)割合が高い。

[図 6] 性年代別:『かかりつけ薬局』の保有状況(単数回答)



Q7 あなたが、『かかりつけ薬局』を選ぶ場合、どのような機能・サービスを重視しますか。

重視する点を上位3つまで選択してください。(回答は3つまで)

『かかりつけ薬局』を選ぶ時に重視する機能・サービスを尋ねた結果、薬に関する事柄が占めた。

1位「薬の効果や副作用の確認」(57.0%)

2位「複数の医療機関から出ている薬の飲み合わせチェックや残薬の確認」(48.7%)

3位「医師の処方内容についての確認」(35.4%)。

次いで重視するのは、「薬の相談がいつでも気軽にできる」(27.1%)、「感じの良い薬剤師やスタッフがいる」(20.5%)といった、雰囲気やスタッフに関する事柄となった。

[表7]『かかりつけ薬局』を選ぶ際の機能・サービス(回答は3つまで)

	回答者数	%
TOTAL	1008	100.0
薬の効果や副作用の確認	575	57.0
複数の医療機関から出ている薬の飲み合わせチェックや残薬の確認	491	48.7
医師の処方内容についての確認	357	35.4
薬の相談がいつでも気軽にできる	273	27.1
感じの良い薬剤師やスタッフがいる	207	20.5
知識が豊富で、薬に関してどのような相談でもできる薬剤師がいる	192	19.0
休日や夜間にも薬の相談ができる	106	10.5
自分以外の家族の薬に関する相談	63	6.3
医療機関や健康施設等の紹介	53	5.3
スマートフォンから処方せんの受付ができる	52	5.2
疾病予防や健康管理に関する相談	44	4.4
スマートフォンやPCを活用した電子お薬手帳が使える	41	4.1
プライバシーに配慮した相談コーナーや、感染症患者用の個室	35	3.5
在宅療養患者への薬のお届けや服薬指導	32	3.2
コレステロールや血糖値などの簡易血液検査	17	1.7